

フランティシエク・クプカ 《灰色と金色の展開》(一)

古田 浩俊

はじめに

I 天地の切り取り

II ドキュメントより

III 《コントロールダンス》との比較から

IV 下層の絵具からの知見
終りに

CATALOGUE

はじめに

愛知県美術館は、フランティシエク・クプカの油彩画《灰色と金色の展開》(図1)を一九九二年に収蔵した。これは公立私立を含めた日本の美術館がクプカの油彩画を収蔵した嚆矢である。その後、他館でクプカの油彩画を購入したという話は寡聞にして知らないが、おそらく現在のところ日本の美術館に所蔵されているクプカの唯一の油彩画であろう。

《灰色と金色の展開》は、決してクプカの第一級の作品というわけではないが、抽象絵画のバイオニアのひとりであるクプカの絵画的特質が明確に表れているという点において、二〇世紀の美術を収集方針とする公立の美

術館が所蔵するにふさわしい作品である。一方で、この作品は考察すべきいくつかの問題も孕んでいる。即物的な面では、作品が断ち落とされていること、絵具の下層に別の色彩が見られることがあげられる（注1）。これらの事実は、制作年を再検討する際に重要な手掛かりとなる。内容的な面では、何を描いているのかという大きな問題がある。後者に関しては稿を改める予定なので、ここでは制作年についていくつかの角度から検討をおきたい。

I 天地の切り取り

《灰色と金色の展開》は、天地を切り取られた状態で木枠に釘で留められている。つまり、元々の画面は現在見られる画面より天地がもう少し長かったのである。ここで問題になるのは、元々の寸法はどのくらいであったのかということ、いつ誰が何のために画面を短くしたかということである。

前者に関しては、この作品が出品された過去の展覧会カタログのデータが役に立つ。寸法の記載のある最も古い記録は、生誕七十五周年の一九四六年にブラハで開催された個展のカタログで、そこには85×61 cmと記載されている（注2）。それ以前の展覧会カタログには寸法の記載がないが、当然この寸法であったと想像できる。現在のサイズは80×61 cmだから、元々は天地が5 cm長かったわけである。額から絵を外した際に天地とも画面で切断されていることを確認できた。

それでは、いつ誰が何のために画面を短縮したのか。いつという点に関しては、同じく過去の展覧会カタログのデータによって時期が絞り込める。上記のとおり、一九四六年の展覧会では85×61 cmとなっているが、次に出品された一九五五年のローザンヌの美術館での展覧会カタログでは81×60 cmと現在の寸法とほぼ同じになっている（注3）。つまり短縮されたのは一九四六年から五五年の間に限定される。

次に誰が何の目的でという点についてである。クプカは一九五七年に没しているため、一九四六年から五五年の間に切り取られたとすれば、作家本人が切り取った可能性がある。切り取るという行為の主体が作家の場合とそれ以外の人との場合では別個の目的が想定されるので、ここではその両方の場合を考えてみよう。まずはクプカ本人が切り取ったと考えた場合である。まず考えられるのは美的な理由で、画面のプロポーションの調整である。クプカが切り取ったとすると、この美的な理由以外の積極的な理由は見当たらない。切り取る前の縦横の比率は1対1・四三、切り取った後の比率は1対1・三五で全体としてはそれほど大きな変化はない。また、切断することによって作品の見え方が劇的に変化するわけではないので、クプカ本人がわざわざ画布の天地を切断して新しい木枠に張り替えたとは考えにくい。そうすることで何らかのメリットとなる効果が生じているとはいえないからである。

ということとは、クブカ以外の第三者が何らかの理由で切り取ったと考えた方が良さそうである。こちらの場合は美的な理由ではなく、より現実的な理由が想定される。クブカ以外で作品に直接触れることのできるのは画商やコレクター、または美術館関係者である。しかしどのような理由であれ、美術館の人間が勝手に他人の作品を切り取るようなことはしないから、画商かコレクターということになる。画面が切断された想定される期間、一九四六年から五五年の間にこの作品を所蔵していたのは、クブカとルイ・カレ画廊である。ルイ・カレがこの作品を購入したのは不明だが、一九五五年のローザンヌでの展覧会の時点でこの作品はすでにルイ・カレ画廊の持ち物になっていることがカタログから確認できる（注4）。つまり、ルイ・カレ画廊の所蔵になってから何らかの理由で切断されたと考えるのが妥当であろう。その理由については、私見はあるが、あくまで推測の域を出ないので、作品そのものに対するより詳細な調査を行い、確証が得られれば公表することとしたい。

II ドキュメントより

愛知県美術館では《灰色と金色の展開》を収蔵して以来、その制作年を一九一九年としてきた。この制作年の根拠は、作品購入の際に購入先から提出されたデータに基づいている。ところがこの一九一九年という制作年について、ドキュメント（展覧会カタログ）を再検討すると、当初から一九一九年という年代が付けられていたわけではないことがわかる。

この作品が出品されたことが確認できる最初の展覧会、つまりこの作品が公開された最初の展覧会は、一九二四年にパリのボエティ画廊で開催された個展である（注5）。この個展は自らカタログにテキストを書き、出品点数も一〇一点という大がかりなものであり、クブカにとってパリで二回目の個展ではあったが、内容的にはパリで最初の個展と見なしている意欲的な展覧会であった。このボエティ画廊の展覧会カタログでは、《灰色と金色の展開》の制作年は「一九二〇—二二」になっている。次に出品されたのは、同じくパリで一九三六年に開催されたミュシャとの二人展だが、カタログに制作年は記されていない（注6）。一九四六年のブラハのマーネス美術館協会での展覧会カタログでは「一九一九—二二」となっており（注7）、二十二年前のボエティ画廊のものに比べ描き始めが一年早まっている。そして一九五五年のローザンヌの展覧会カタログで初めて「一九一九」という単一の制作年が表記される（注8）。既に述べたとおり、この時の作品の所蔵者はパリのルイ・カレ画廊である。その後、クブカが没した翌年の一九五八年にパリ国立近代美術館で開催された回顧展カタログをはじめ、現在に至るまでこの一九一九年という制作年が踏襲され続けている（注9）。このことは、少なくとも愛知県美術館が当該作品を購入する直前までそれがルイ・カレ画廊の所蔵であったということに起因している。そして愛知県美術館でも旧所蔵者からのデータを無批判的に受入れて現在に至っているのである。

以上の点をまとめると、展覧会カタログによる限りではこれまで①一九二〇—二二年、②一九一九—二二年、③一九一九年という三通りの制作年代が設定されてきた。それではどの制作年が最も信頼できるのだろうか。常識的に考えれば、クプカの生前に開催された展覧会で、しかも制作してから時間が経過していないものほど信頼できるはずである。そう考えると①の一九二〇—二二年というのが最も信頼できる制作年ということになる。展覧会是一九二四年で、制作したのはそのほんの数年前である。それでは一九四六年の展覧会で、②の一九一九—二二年と制作開始が一年早まっているのはなぜか。ひとつの可能性としてはクプカの記憶違いである。制作後二〇年以上経っているということを考えれば、十分ありうる話である。そして③の一九一九年という制作年が使われ始めたのは、クプカが没する二年前の一九五五年に開催された展覧会であり、作家本人の目に触れていたかもしれないが、八〇代半ばという作家の年齢、パリではなくローザンヌという地理的な距離、個展ではないという展覧会の性格などを考慮すれば、クプカ本人が展覧会はおろかカタログにさえも目を触れていない可能性は高いので、この制作年は最も信頼性が薄いとさえざるを得ない。

Ⅲ 《コントルダンス》との比較から

一九二一年六月六日から七月二〇までクプカはパリで最初の個展「フランスワ・クプカ 絵画—白と黒」をボヴォロスキー画廊で開催した(注10)。この展覧会は副題にあるとおり、白と黒のモノクロームの作品を中心に集めた近作展であった。カタログによれば「白と黒」一八点、「水彩画とグワッシュ」七点、「絵画」七点の構成になっている。「白と黒」に含まれる作品をはじめとする多くは紙の作品と考えられるが、「絵画」の中には現在作品が同定されているものが二点含まれている。カタログ番号26—27の *Verticales et diagonales-remniscences* のうちのどちらかはブラハ国立美術館蔵の《垂直の面と斜めの面(冬の記憶)》であり(注11)、カタログ番号28の *La contredance* は現在ムラデク・コレクシヨンの同名の作品と考えられている(注12)。特に後者は時代的にも様式的にも《灰色と金色の展開》と最も近い関係にある作品である。《コントルダンス》(図2)は《灰色と金色の展開》とともに一九二四年のボエティ画廊の展覧会にも出品されており、カタログには《灰色と金色の展開》と同じく「一九二〇—二二」の制作年が記されている(注13)。そして一九二一年という単一の制作年に限定された時期もあったが(注14)、一九七五年のグッゲンハイム美術館での回顧展以降はボエティ画廊の展覧会カタログに記された一九二〇—二二年の制作年が踏襲されている(注15)。

ボヴォロスキー画廊の展覧会に《コントルダンス》が出品されて、《灰色と金色の展開》が出品されていないのはなぜだろうか。「白と黒」という展覧会のコンセプトからすれば、赤や緑の鮮やかな《コントルダンス》よりもモノクロームに近い《灰色と金色の展開》の方が出品するのにふさわしい。可能性として最も高いのは、

展覧会の初日にあたる一九二一年六月六日の時点で前者は完成されていたが、後者は未完成であった、つまりまだ公開する段階にはなかったということである。このことと、ボエティ画廊のカタログの年記一九二〇—二一年から《灰色と金色の展開》の完成は一九二一年後半と考えられる。

IV 下層の絵具からの知見

同じ制作年がカタログに記載されながらも、《灰色と金色の展開》が完成したのは《コントルダンス》よりも遅いということは、作品そのものからも推察される。《灰色と金色の展開》は灰色と黄褐色（金色）が画面を支配しているが、下層には《コントルダンス》と共通の鮮やかな色彩が塗られていることが、画面の随所に見られる亀裂部分から垣間見られる。つまり、ある時期まで《灰色と金色の展開》は《コントルダンス》と平行して描かれており、同様な色彩が用いられていたが、《コントルダンス》が先に完成し、その時未完であった《灰色と金色の展開》は、やがて画面に上塗りがされて現在見られる画面になったと推察される。

一九七五年以降《コントルダンス》の制作年が一九二〇—二一年に設定されていることは、この作品の制作年が記載された最初の展覧会である一九二四年のボエティ画廊のカタログに基づいていると考えられるので、《灰色と金色の展開》についても同カタログの制作年を信頼するのが妥当であろう（注16）。

終りに

これまでの考察から導かれた結論をまとめると、《灰色と金色の展開》の制作年は描き始めが一九一九年である可能性を完全に否定することはできないが、一九二〇から二二年という制作年が最も妥当であるという結論になる。そして完成は一九二一年の後半だろうと推定される。また、作品そのものについては、現在見えていない天地の部分に旧画面が数センチの幅で残っている以上、将来的にできるだけ本来の姿に戻るように修復するのが望ましいと思われる。

CATALOGUE

Title:

Déroulement gris et or (French)

灰と金の展開 (Japanese)

Development in Gray and Gold (English)

Rozvíjení zlatých a šedých (Czech)

Date: 1920-21

Size: 60x81cm

Signed at lower left: *Kupka*

Aichi Prefectural Museum of Art, inv. no. 92-FO-005

Provenance:

The artist

Galerie Louis Carré & Cie, Paris (1958)

Private collection (1981)

Galerie Louis Carré & Cie, Paris, 1992

Galerie Tokoro, Tokyo, 1992

To the present owner, purchase 1992

Exhibition:

1924 Paris: *Exposition des œuvres de F. Kupka*, du 16 au 31 Octobre, Galerie la Boétie, no.28.

1936 Paris: *F. Kupka A. Mucha, œuvre exposées*, Musée des Écoles Étrangères Contemporaines, Jeu de Paume des Tuileries, Paris, Juin 1936, no.21.

1946 Prague: *František Kupka, Výstava životního díla 1880-1946*, S.V.U. Mánes, 14.XI-8.XII, no.41.

1955 Lausanne: *Le mouvement dans l'art contemporain*, Musée cantonal des beaux-arts, Lausanne, du 24 juin au 26 septembre, no.45.

1958 Paris: *Kupka*, Musée national d'art moderne, 27 Mai-13 Juillet 1958, Édition de Musée nationaux Paris, no.37.

- 1964 Paris: Kupka: *Painture 1910-1946*, Galerie Louis Carré, no.9.
- 1981 Cologne: Frank Kupka, Galerie Gmzynska, no.13, repr.
- 1989-90 Paris: *František Kupka 1871-1957 ou l'invention d'une abstraction*, Musée d'art moderne de la ville de Paris, 22 novembre-25 février, no.11, repr. color.
- 1992 Saint-Paul: *L'art en mouvement*, Fondation Maeght, no.38.
- 1994 Nagoya, Tokyo, Sendai: *František Kupka*, Aichi Prefectural Museum of Art, The Miyagi Museum of Art, Setagaya Art Museum, no.93, repr. color.
- 愛知県美術館「宮城県美術館」世田谷美術館「クプカ展」
- 1996 Hiroshima: *The Birth of 20th Century Art: Europe, U.S.A. and Japan in 1920s -30s*, Hiroshima Prefectural Museum of Art, no.12, repr. color.
- 広島県立美術館「20世紀美術の誕生」展
- 1998 Nagoya: *Collection: Aichi Prefectural Museum of Art*, no.26, repr. color.
- 愛知県美術館「近代美術の100年 愛知県美術館のコレクション」展
- 1999 Takamatsu: [The Gate of 20th Century: Revolution of Color and Form] no.72, repr. color.
- 香川県文化会館「20世紀の扉—いろとのかたちの革命—」展
- 2002 Tokyo: *The Unfinished Century: Legacies of 20th Century Art*, The National Museum of Modern Art, Tokyo, no.102, repr. color.
- 東京国立近代美術館「未完の世紀 20世紀美術がのこすもの」展

Bibliography:

- Giulia Veronesi, "Kupka," *Emporium*, Bergamo, August, 1964, p.82, repr.
- Giulia Veronesi, "L'Arte astratta nell'Europa Centrale," *L'Arte Moderna*, 1967, no.51, vol.6, repr. color, p.218.
- Ludmilla Vachtová, *František Kupka*, Prague, 1968, no.143, repr. [English edition: Frank Kupka. Pioneer of Abstract Art, New York-Toronto, 1968, no. 1143, repr.]
- Marthe Nanni, "Frank Kupka et le symbolisme viennois", *Cahiers du Musée national d'art moderne*, Paris, 1980, p.390, no.27, repr.

Selected Works from the Collection of Aichi Prefectural Museum of Art, Nagoya, 1992, no.10, repr. color.

『愛知県美術館所蔵作品選』

Catalogue of Collections, Aichi Prefectural Museum of Art, Nagoya, 1993, no.24, repr.

『愛知県美術館所蔵作品目録』

注

- (1) 下層の絵員の存在については、1994 Nagoya, Tokyo, Sendai, no.93 作品解説で指摘した。
- (2) 1946 Prague, no.41.
- (3) 1955 Lausanne, no.45.
- (4) *Ibid.*
- (5) 1924 Paris, no.28.
- (6) 1936 Paris, no.21.
- (7) 1946 Prague, no.41.
- (8) 1955 Lausanne, no.45.
- (9) CATALOGUE 一九五八年以降の出品歴を参照のこと。
- (10) *Exposition François Kupka: Peintures - Blancs et Noirs*, Le Lundi 6 Juin au 20 Juin 1921, Galerie Povolozky, Paris.
- (11) *František Kupka: A Retrospective 1871-1957*, The Solomon R. Guggenheim Museum, New York, 1975 (1975 New York), no.144; 1994 Nagoya, Tokyo, Sendai, no.113.
- (12) 1989-90 Paris, no.112.
- (13) 1924 Paris, no.30.
- (14) *Kupka*, Louis Carré Gallery, New York, 1951, no.7; 1958 Paris, no.39; *Kupka*, Louis Carré Gallery, Paris, 1964, no.12.
- (15) 1975 New York, no.133; 1989-90 Paris, no.112; *Two Pioneers of Modern Art I, František Kupka, from the Jan and Meda Mladek Collection*, Czech Museum of Fine Arts, Prague, Albertina Graphic Collection, Vienna, Haus der Kunst, Munich, 1996-97.
- (16) この問題に関して、一九九四年九月七日にクプカのコレクターでもあり研究者でもあるワシントン在住のメダ・ムラデク女史を訪問した際に直接尋ねてみたところ、「クプカ自身がオーガナイズしたボエティ画廊のカタログに記載されている一九二〇—二二年が最も信頼できる」という回答をいただいた。

謝辞

執筆にあたり以下の機関や個人にご協力いただきました。Knihovna, Národní galerie v Praze (プラハ国立美術館図書室); Ms. Caroline Nicod, Musée cantonal des Beaux-Arts, Lausanne; Mrs. Meda Mladet, Washington, D.C. また、作品の状態調査に際しては同僚の長屋菜津子保存担当学芸員の協力を得ました。あわせてここに感謝します。

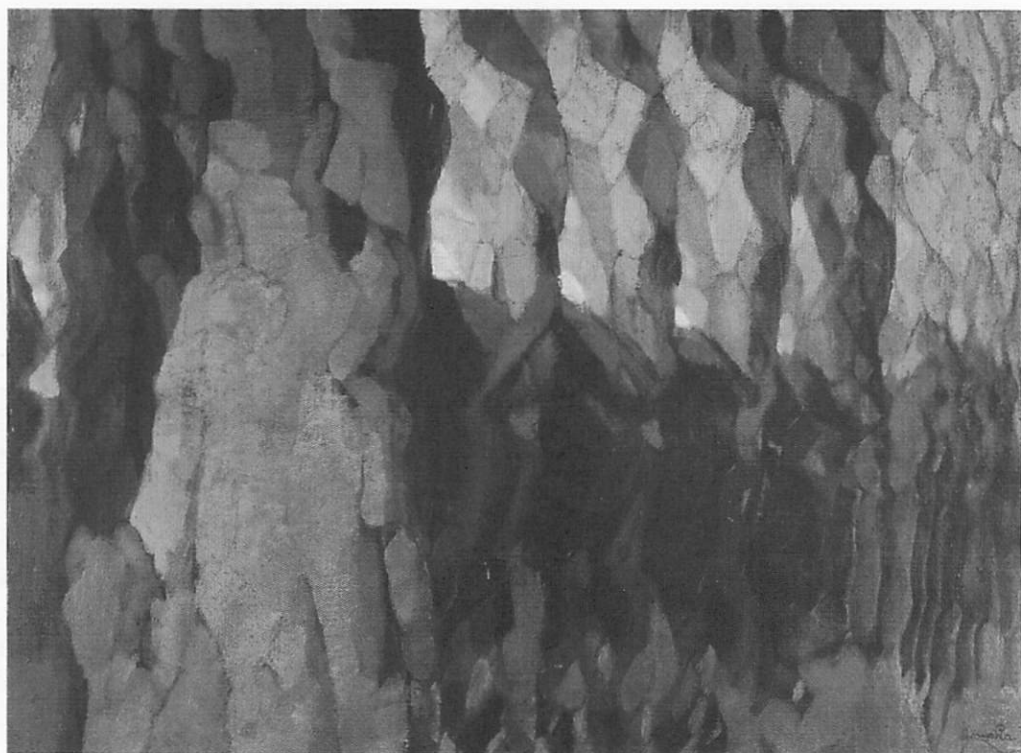


図1 《灰色と金色の展開》

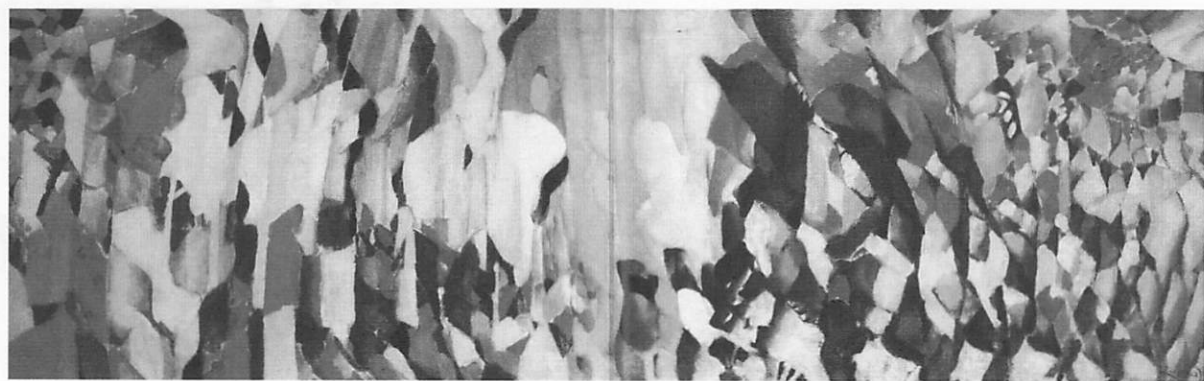


図2 《コントロールダンス》